

社会経済史学会中国四国部会
2023年度大会プログラム（香川大学・高松市）のご案内

2023年10月31日

会員各位

社会経済史学会中国四国部会
大会準備委員会 張 暁紅・水野敦洋
事務局 森 良次

謹啓

錦秋の候 時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、社会経済史学会中国四国部会は、2023年12月2日（土）、3日（日）に香川大学主催のもと、香川大学幸町キャンパスにて、部会大会を開催いたします。詳細につきましては、同封した大会プログラム等にてご案内しておりますので、ご確認をお願い申し上げます。

今年度の大会はネット配信と対面式のハイブリッド開催となります。会場にお越しいただくことが困難な方におかれましては、ぜひネット配信をご活用いただきますようお願い申し上げます。ネット配信に関する詳細は下記大会「開催方法」をご参照ください。

会員各位におかれましてはご多忙のことと存じますが、活発な部会になりますようご協力いただきたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

- 【時間】 第1日 2023年12月2日（土） 12：40～13：25 理事会
13：10～ 大会受付開始
13：30～17：20 シンポジウム
17：30～18：00 総会
- 第2日 12月3日（日） 9：15 から受付開始
9：30～12：25 自由論題報告
- 【会場】 香川大学幸町キャンパス ※二日間の会場は異なるため、ご注意ください。
第1日 教育学部8号館812室（幸町北キャンパス）（高松市幸町1-1）
第2日 経済学部又信記念館特別講義室（幸町南キャンパス）（高松市幸町2-1）
- 【懇親会】 時間：18：30～20：30、場所：瓦町周辺、予算：4000～5000円（飲み代込み）

社会経済史学会中国四国部会
2023年度大会プログラム（香川大学・高松市）

1日目：12月2日（土）12：40～18：00

- ・理事会（12：40～13：25）（ネット配信と対面式のハイブリッド）
 - ・シンポジウム（13：30～17：20）（ネット配信と対面式のハイブリッド）
 - ・総会（17：30～18：00）（対面式のみ）
-

シンポジウム（13：30～17：20）

テーマ「近代における阪神地域の産業・貿易とアジア諸地域の社会経済的变化」

- ・趣旨説明（13：30～13：40）平井健介（甲南大学）
- ・第1報告（13：40～14：05）古田和子（慶應義塾大学名誉教授）
「石炭・大阪・アジア市場 1910-1920年代」
- ・第2報告（14：05～14：30）水野敦洋（香川大学）
「神戸におけるゴム製品工業と海外輸出：1920～30年代を中心に」
- ・第3報告（14：30～14：55）工藤裕子（東洋文庫）
「日本製雑貨と南洋市場—欧製品との競合と華商流通網」
- ・第4報告（14：55～15：20）平井健介（甲南大学）
「日本人の植民地進出と阪神雑貨」
- ・第5報告（15：20～15：45）張曉紅（香川大学）
「満洲の輸入綿布市場の変容と華商」

ティー・ブレイク（15：45～16：00）

- ・コメント1（16：00～16：15）谷ヶ城秀吉（専修大学）
- ・コメント2（16：15～16：30）陳來幸（ノートルダム清心女子大学）
- ・総合討論（16：30～17：20）

シンポジウムの趣旨について

平井健介（甲南大学）

本パネルの目的は、阪神地域に集積した産業とその輸出品が、アジア諸地域でどのような社会経済的变化を引き起こしたのかを分析することにある。

近代アジアの世界史的特徴は、域内で緊密な経済的紐帯を有していたことにあるとされる。アジア経済史研究では、日本・中国・インド・東南アジアの間で形成される「アジア間貿易」の成長率がアジアの対欧米貿易のそれよりも高く、欧米への一次産品輸出を通じて上昇するアジアの人々の購買力の多くがアジアで生産された商品に向かったことが指摘されている。アジア間貿易の中でも特に成長率が高かったのは日本が関係する貿易環節であり、それはアジアの人々の購買力や嗜好を日本製品が捉えたことを示唆している。

アジアへの輸出品の多くは阪神地域で生産された。阪神地域は日本の中核的な近代産業であった綿紡績工業や、外貨獲得産業であった雑貨工業が集積し、これらの産業は原料調達

と製品市場の両面でアジアと密接な関係を有していたことが明らかにされてきた。また、貿易史研究でも横浜港と比較して神戸・大阪港はアジア地域との貿易関係が相対的に強かったことや、開港後の大阪や神戸には多くの華僑が訪れ、日本とアジアをつなぐネットワークを形成していたことが明らかにされてきた。

以上のように、先行研究では、日本の対アジア関係の結節点としての阪神地域の重要性が指摘されてきた。他方で、アジア諸地域にとって、阪神地域から流入するヒト・モノ・カネ・情報が如何なる意味を持ったのかという視点からの研究は、ほとんど議論されてこなかった。つまり、アジア経済史における阪神地域の位置づけは不明確なままである。

そこで、本パネルでは、中国、東南アジア（蘭領東インド）、日本勢力圏（台湾・満洲）で起こった経済的、政治的、社会的変化に対して阪神地域で生産された製品（綿製品、雑貨、ゴム製品など）がいかに影響していたのかを考察する5本の報告で構成される（各報告タイトルはプログラムを参照）。コメンテーターには、華僑史研究を専門とする陳來幸先生と、日本流通史・商社史を専門とする谷ヶ城秀吉先生にお願いした。

2日目：12月3日（日）

・自由論題報告 9：30～12：25（ネット配信と対面式のハイブリッド）

・第1報告（9：30～10：10）

報告者：李紅云（広島大学大学院） 司会：松本俊郎（岡山大学名誉教授）
「19世紀イギリス製陶業における女性労働者の技能養成」

・第2報告（10：15～10：55）

報告者：末田智樹（中部大学） 司会：森良次（広島大学）
「幕末維新时期新政府の財政資金調達と伊勢商人」

・第3報告（11：00～11：40）

報告者：伊藤康（鳥取県立公文書館） 司会：山本太郎（倉敷市総務局）
「池田農場の経営戦略に関する一考察」

・第4報告（11：45～12：25）

報告者：村山聡（香川大学名誉教授） 司会：坂根嘉弘（広島修道大学）
「讃岐の早魃リスクと溜池決壊の歴史：経済史における人新世」

大会会場

会場 香川大学幸町キャンパス（高松市幸町 1-1（1日目）、幸町 2-1（2日目））

※二日間の会場は異なるため、ご注意ください。

香川大学幸町キャンパスへの移動手段

【JR】高徳線「高松駅」→「昭和町駅」下車 徒歩 5 分（東へ 250m）

【バス】JR 高松駅発（高松駅前①②番のりば）

ことでんバス 11 番「幸町」下車、徒歩 3 分

ことでんバス 13 番「宮脇町」下車、徒歩 3 分

ことでんバス まちなかループバス「香川大学教育学部前」、あるいは「香川大学法学部・経済学部前」下車すぐ

【タクシー】JR 高松駅→香川大学 約 10 分 約 800 円

キャンパス内マップ

【第 1 日】香川大学教育学部 8 号館 812 室（幸町北キャンパス）（高松市幸町 1-1）



【第 2 日】香川大学経済学部 又信記念館特別講義室（幸町南キャンパス）（高松市幸町 2-

1）

